

モンゴル国の助産師における分娩介助技術向上事業: 経産道感染と産道裂傷の予防技術(全国普及)

- ① ニーズ・背景: 大病院集約化により新生児及び5歳未満死亡が改善した反面、妊産婦死亡の改善は遅れており「感染」が主原因とされている。また、助産師の新規養成停止や業務範囲の制限が助産師の技術低下を招き、地方含む国全体の能力強化が喫緊の課題となっている。
- ② 事業の概要: 日本の助産師がモンゴル国の助産師に軟産道裂傷のリスクの低い分娩介助技術の研修を実施し、同国の指導者育成及び全国普及ワーキンググループを結成する。
- ③ 期待される成果: モンゴル国助産師全体の6割が、感染リスクの低い分娩介助技術を習得する。また、同技術はじめ更なる能力向上の為の普及拠点が、中央と地方3県に設立され、中央から地方への技術普及のシステムが構築される。

